

これまでの取組及び来年度の方向性について

平成30年3月9日(金)

文部科学省大臣官房国際課長 里見 朋香



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

The logo for EDU-Port Japan features a collection of colorful circles in various sizes and colors (red, orange, yellow, green, blue, purple, teal) arranged in a circular pattern on the left side of the slide. The text "EDU-Port Japan" is displayed in a bold, black, sans-serif font to the right of the circles.

EDU-Port Japan

これまでの取組



日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）

検索！

背景

近年、諸外国首脳から、高い基礎学力のみならず協調性や行動規範を重視する初等中等教育や、実践的かつ高度な職業教育を行う高等専門学校制度など、「日本型教育」に強い関心が寄せられている。

インド



小中学校制度

日本の小中学校制度は独特でありインドにモデルとして導入したい」（インド・モディ首相）

UAE



日本人学校

「教育分野において、実践的な形で協力を得たい。日本の教育プログラム、教育者の育成カリキュラム、人格・道德教育の手法などを取り入れたい。」（エジプト・エルシーシー大統領）

エジプト



教育全般

ベトナム



専門学校

「国内の専門学校等の底上げなど、人材育成に向けた協力をお願いしたい。」（ベトナム・ズン首相（前））

ペルー共和国



高等専門学校

タイ王国



高等専門学校・基礎教育

ブラジル



高等教育・職業教育

マレーシア



高等教育

「現在、高等専門学校と進めているプロジェクトにおいて、職業教育の人的交流に加え教材開発、カリキュラム設計の協力をいただいているが、これを基礎教育レベルにまで拡充することを希望する。」（タイ・ティラキアット教育大臣）

「両首脳は、日本語教育の強化及び日本式教育の拡大に関し協力し、また、二国間の大学間交流を促進するとの意図を共有した」（日越共同声明（平成29年6月））

事業概要

外務省・経産省や国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、地方公共団体、教育機関、民間企業、NPOから構成する「日本型教育の海外展開官民協働プラットフォーム」（EDU-Portニッポン）を運営。

有識者会議、シンポジウム等を通じて関係者間で議論・情報共有を図るとともに、国際フォーラムへの出展、個別相談、パイロット事業の支援等を実施し、海外展開モデルを形成することで、日本型教育の海外展開を促進する。

1. 官民協働プラットフォームによる情報共有・案件形成



（ホームページ、メルマガ、シンポジウム、広報）

2. ニーズの具体化、マッチング機会の促進



案件形成が促進される土壌を醸成

3. パイロット事業の実施

展開案件を育成

海外展開モデルの形成

- ・教育カリキュラム、教員研修制度の導入
- ・教科書の採用
- ・高専制度の導入
- ・大学・高等専等の進出
- ・日本の教育産業の海外進出 等

① 日本の教育の国際化

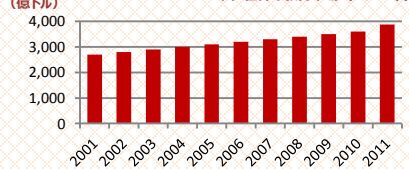
海外展開をきっかけに、シニア教員の活用や海外での学校設置など、学校人事、学校経営、また新たな教育の国際化の手法やパートナーを見出すメリットが期待できる。

② 将来の親日層の拡大

特に教育は対象が若年層であるため、将来に渡る長期的な効果が期待できる。

③ 日本の経済成長への還元

図. 世界の教育市場（2011年）



→ 教育分野の伸びは約 1.5 倍と成長市場

（三井物産戦略研究所「世界の教育産業の全体像」（2013.11.20）より、文科省にて作成）

ステアリングコミティー(2016/8-2018/3)(50音順・敬称略)

座長

槍田松瑩

株式会社三井物産顧問、国際大学理事長
元・日本貿易会会長 元・経団連副会長

大久保昇

公益社団法人日本理科教育振興協会 会長
株式会社内田洋行 代表取締役社長
一般社団法人日本教育情報化振興会副会長
一般社団法人 日本IMS協会 副理事長

大沼淳

文化学園大学 理事長・学長

北村友人

東京大学大学院教育学研究科 准教授

上月正博

独立行政法人国立高等専門学校機構理事

佐々木啓介

経済産業省商務情報政策局サービス政策課長

佐藤隆正

独立行政法人日本貿易振興機構サービス産業部部長

副座長

鈴木寛

東京大学教授・慶応義塾大学教授

顧問

田中明彦

政策研究大学院大学学長

熊谷晃子

独立行政法人国際協力機構人間開発部長

中村雅治

公益財団法人海外子女教育振興財団 理事長

西沢利郎

東京大学公共政策大学院特任教授
元・国際協力銀行外国審査部長

横地晃

外務省国際協力局地球規模課題総括課長

若井英二

株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員

※2017年4月開催時の名簿

石原伸一

独立行政法人 国際協力機構(JICA) 人間開発部 次長

河田美緒

経済産業省 商務情報政策局

サービス政策課 海外展開支援室 室長

進行役 北村友人

東京大学大学院教育学研究科 准教授

長井延裕

株式会社海外需要開拓支援機構（クールジャパン機構）投資連携・促進グループ 統括部長

岡垣さとみ

外務省 国際協力局 地球規模課題総括課 上席専門官

高橋由篤

独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)

サービス産業部サービス産業課長

※2017年8月開催時の名簿

「EDU-Portニッポン」これまでの取組

国内セミナー

資料は
ウェブサイト参照

キックオフシンポジウム（H28年8月）

- ◆ 関係機関・先行事業者によるプレゼンテーション（12件）、ネットワーキング
- ◆ 300人を超える参加者

EDU-Portシンポジウム（H29年2月）

- ◆ 事業報告・パネルディスカッション、公認・応援プロジェクトの報告（14件）
- ◆ 在京大使館からゲストを招き、パイロット事業者によるポスターセッションを実施



・キックオフ
シンポジウム



・EDU-Portシンポジウム
パネルディスカッション

海外への発信

メルマガ登録事業者等
に海外でのPR機会を
提供

国際フォーラムの開催

（第1回：H28年10月、第2回：H29年10月）

<概要>

現地における日本型教育の発信を目的に、タイ教育省主催の教員の能力開発をテーマとした教育エキスポであるEDUCA（例年5万人を超える参加者）に出席

◆「日本パビリオン」(第1回・第2回)

- ・出展者の募集・出展支援を実施(第1回は4機関、第2回は11機関出展)。
- ・第2回では、「文科省ブース」を出展。パンフレットや動画を使用し日本の基礎教育を紹介。同時に、日本の小学校再現コーナー（バンコク日本人学校から机、掲示物、学習用具を借用）を設置。700名以上来訪。

◆「日本特別セミナー」(第2回)

- ・文部科学省、独立行政法人 教職員支援機構、国立大学法人 東京学芸大学、株式会社 朝日新聞社より日本型教育に関する講演を実施した。

・日本パビリオンの様子



・文科省ブース



・文科省ブースに
タイ教育省一行来訪



・日本特別セミナー
(文部科学省講演)



オールジャパン体制の構築（機運醸成・情報ネットワークの構築・事業紹介）

官民協働プラットフォームの運営

- ◆ ウェブサイト（日本語・英語、46,490ビュー）・メルマガ（隔週発行、約230機関からの登録）・Facebookにより、事業・取り組み事例の紹介や関連情報の提供を行う

ぜひメルマガに
登録を

トピックセミナー（H29年2月）

- ◆ 初中・高等・理工系について、先行事業者・JICAによるプレゼンテーション（9件）
- ◆ JICAの取組み・支援メニューの周知・共有

資料は
ウェブサイト参照

国別分科会

- ◆ 日本型教育の海外展開の具体的な進展が見込まれる国を選定
- ◆ 参加した機関に対し、当該国への展開に資する情報提供（JETROによる経済情勢に関するプレゼンテーション含む）、展開気運の醸成、参加者間ネットワークの形成を目的
- ◆ タイ、インド、ベトナムの3カ国を対象に、各3回、計9回の分科会を開催（51団体の参加）

・ウェブサイト



・国別分科会の様子（ゲストスピーチ）



各省連携による
支援を受ける
チャンス

パイロット事業の実施

- ◆ 日本型教育の海外展開モデル形成に向け、具体の案件をプラットフォームを通じて手次的に支援
- ➔ 7件の公認プロジェクト、18件の応援プロジェクトを支援中

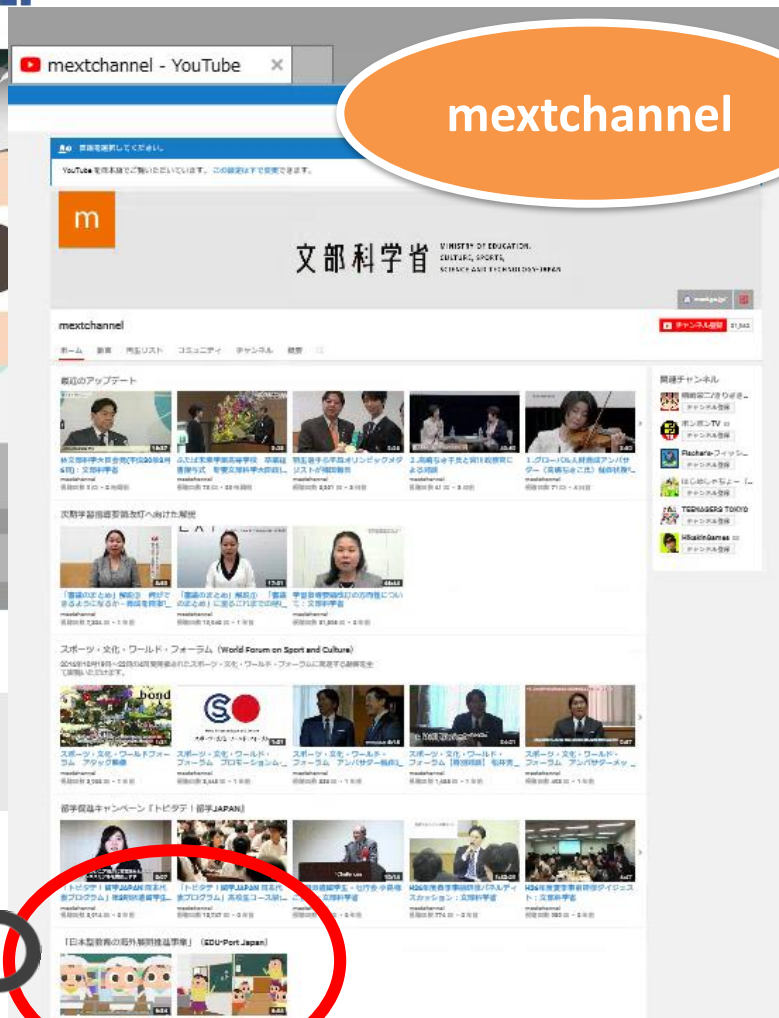
動画 (Japanese-style education -One day of elementary school students in Japan-)



日本の教育を紹介
するツールとして
ご活用を



mextchannel



NEWS

2018.03.01 『『高専 is KOSEN』～日本の高専から世界の高専へ～ 高専の国際展開シンポジウム』開催のご案内

mextchannel : <https://www.youtube.com/user/mextchannel>

EDU-Portウェブサイト : <https://www.eduport.mext.go.jp/>



日本の教育を紹介
するツールとして
ご活用を

Basic Education in Japan

chi toku tai
-知・徳・体-



Educational contents 1

*The following examples are typical ones, there are some differences between schools and regions.

Japanese Language



To explain how I felt about the story I have read, I'm describing the scenes and writing down my impressions of them.

Aims to develop in children the competencies to properly express and accurately comprehend the Japanese language through speaking, listening, writing and reading.

(Nagano Elementary School, Tokyo City)

Living Environment Studies



Aims to develop in children the competencies through specific activities and experiences to live full and independent lives.

Even without any growth by connecting it, meaning glory's growth with my caring activity.

(Fukuro Nigata (Elementary School Attached to Faculty of Education Nigata University))

Moral Education

Moral education is implemented throughout all educational activities, with the moral education class as the primary period. To develop students' attitude for thinking about moral problems by sincerely addressing values, including when diverse values are in conflict, in a way that is appropriate for the students' stage of development and without putting any particular set of values.

What are the Rights and the Obligations?

Rights What children are rights and the obligation to be regarded as rights.

Obligations The obligation to be regarded as obligations to be regarded as obligations.

What are rights and obligations?

A day to remember (Moral Education)

Physical Education



Aims to develop in children the competencies to maintain and improve their mental and physical health for life, and to realize a rich living sporting life. Specifically, to learn health and various activities such as physical fitness, apparatus gymnastics, track and field, swimming, ball games, and the expressive activities.

With ICT devices, we have a discussion on the movement of equal and the hand to improve our performance.

(Saijo Elementary School, Higashikawakita City)

Example of 2nd graders

	Monday	Tuesday
8:10-8:20	Morning Study	Morning Reading
8:45-9:30	1 Japanese Language	Physical Education
9:40-10:25	2 Japanese Language	Japanese Language
10:45-11:30	3 Arithmetic	Music
11:40-12:25	4 Japanese Language	Arithmetic
12:25-13:55	Lunch / L	
14:00-14:45	5 Moral Education	Living Environment Studies
14:55-15:40	6	Classroom Activities

Art and Handicraft



Aims to develop in children, through creating something on the basis of what has occurred to them when looking at and touching materials, expressing what they have felt or imagined in the form of a drawing or painting, a three-dimensional craft or some other kind of handicraft and looking at their own work and works of art, the competencies for expressing creatively and appreciating. Also, at the same time, to encourage children to enjoy creating something.

We are painting a large picture, while discussing with hands and looking of each other's pictures.

(Otsuka Elementary School)

Teachers

Teachers support education that takes a holistic approach

Teachers play an extensive role in education in Japan. In other countries, the main duty of a teacher is to teach in a classroom, but a notable feature of teachers in Japan is that they are integrally responsible for teaching classes, providing student guidance, supervising club activities, and other roles. As teachers teach classes with an awareness of the situation of each child, schools play a significant role in character-building of children.



- Certificate
- Training
- Employment
- Development

A teacher's certificate is necessary to be a teacher. The certificate needs to be renewed every 10 years when it expires.

Teacher training is provided by universities, etc.

Teacher recruitment and selection is conducted by boards of education, etc.

As teachers must always continue receiving development throughout their careers, training is done systematically. (e.g. development for new teachers, development for mid-career teachers etc.)

Sidebar: Lesson Study

Teachers observe each other's classes, and through analysis of lesson plans, lesson progress, and other matters based on the reactions of the children during the lessons, the teachers discuss the effects and issues of the lesson, learn from each other, and engage in improving their own lessons. In addition, this activity cultivates good relationships within the school by expanding networks among the teachers.

Lesson Study Flow

Study of educational materials



Other teachers observe the actual classes, then give feedback.

○平成28年度採択パイロット事業（2016-2017）の概要

活動内容についてはお手元の概要冊子・
本日の活動報告・ポスターセッションで

高等教育		 愛媛大学 ミャンマー国工科大学への 日本方式 実験室安全教育普及  千葉工業大学 モンゴルにおける日本型宇宙 教育とIoT／ICT海外展開
職業教育	 （株）学研HD インドにおける 日本型職業訓練事業  HR Japan タイ人大学生ビジネス人材 育成事業	
初等中等教育	 東京学芸大学 日本人学校を拠点とする 日本型教師教育国際展開  ヤマハ（株） 初等中等教育の音楽教科への 器楽教育導入定着化事業  ミズノ（株） ヘキサスロン運動プログラム 導入普及促進事業  朝日新聞社／博報堂（株） 日本型学習プラットフォーム 「みつけ」のアジア展開  （株）ハッココーポレーション 日本語学習者における 語彙定着プログラム開発準備  ｽﾎﾟｰﾂﾃｰﾑ (株) 日本型部活動の海外輸出	 広島大学 「日本型防災教育モデルBOSAI」 での学びの環境づくり 【アフリカ】福井大学 「福井型教育の日本から 世界への展開」スタートアップ事業  日本教育工学会 フィリピン3大学を キーステーションとした 教員研修計画  埼玉県 埼玉版アクティブラーニング型授業 による教員研修支援PJ
	ベトナム、タイ、インド（国別分科会対象国）	その他

公認PJ：経費支援＋調整支援

応援PJ：調整支援

○H29年度パイロット事業採択事業の概要（対象段階／対象国別）

高等教育	 （株）教育と探究社 ベトナムにおける主体的・対話的で深い学びを実現する日本型キャリア教育の実践導入とその指導法支援 【東南アジア】芝浦工業大学 GTIコンソーシアムを活用した産学官連携グローバルPBLの国内外大学での定着  名古屋大学 「日本型司法制度」支援を支える法律家育成のための新しい共通法教育モデルの構築  岐阜大学 ミャンマーの大学基礎実験教育の教員研修システム構築	 関西大学 ブータン王国立大学の理工系カレッジへの4年制機械工学科設置支援による日本型工学教育の海外への展開  Bangladesh国際協力推進会 デザイン思考教育を用いた Bangladesh の病院における問題の解決
初等中等教育	 【ASEAN、アフリカ諸国等】 （主にフィリピン、マラウイ）福井大学 「福井型教育の日本から世界への展開」 アジア・アフリカ・日本の教師教育 コラボレーション事業  日本教育工学会EDU-Portプロジェクト カンボジア教員研修センターと日本をつなぐ、 日本開発デジタル教材を活用した小学校 英語研修と遠隔サポート  NPO法人ジャパンスポーツコミュニケーションズ 「運動会ワールドキャラバン」PJ	【中国 韓国 ルーマニア】NPO法人 MIYAZAKI C-DANCE CENTER 身体形成と芸術体験を融合させた日本型ダンス教育「創作ダンス」の海外輸出  （一財）地球・教育魅力化プラットフォーム 「学校を核とした地域再生」の海外展開モデル事業～ブータン学校魅力化PJ～
	ASEAN、インド（重点地域）	その他

代表機関 (展開国)	事業名／○概要★成果	
東京学芸大学 (タイ王国)	在外教育施設(日本人学校)を拠点とする日本型教師教育の国際展開 ○ 日本人学校を拠点とする「授業研究」の海外展開モデル作り ○ 日本人学校教員を指導者として育成後、現地大学と連携し現地指導者を育成 ★ バンコク日本人学校を事業実施拠点と確定。 ★ 現地校でのモデル事業実施に関してコンケン大学と調整 ★ 松野大臣も現地に赴き現場を視察し、タイ教育大臣から更なる教育支援の要請を受ける。	
広島大学 (ネパール 連邦民主共和国)	子どもの主体性を培う『日本型 防災教育モデルBOSAI』を用いた安全で安心な学びの環境づくり支援 ○ JICA支援で開発された防災教育モデルを、震災を経験したネパールの小学校に普及 ○ 学校や地域と連携し、生徒が主導的に参画する学校防災策定計画モデルを実証・普及 ★ ダディン郡の2校でワークショップを実施(60名参加) ★ 両校のBOSAIマップが作成され、危険箇所、避難所が確認された	
学研 (インド)	インドにおける日本型職業教育事業 ○ 日本の専修学校と連携し、運送系自動車運転免許訓練、重機オペレーション訓練を対象とし、日本型の職業教育学校(スキルだけでなく、安全教育や労働モラルを身につけた人材を輩出)を開設 ★ パイロット校候補地における「日本型職業訓練」需要に関するヒヤリング等を行い、第1校目の候補都市を確定	
ミズノ (ベトナム 社会主義共和国)	初等義務教育ヘキサスロン(運動プログラム)導入普及促進事業 ○ 授業数が限られ、運動要素(「走る」「跳ぶ」「投げる」)が少ないベトナムの体育授業改善を実現することにより、肥満に代表される健康被害の低減、健康増進に寄与 ★ 現地校導入を見越し、代理店社員と小学校教員対象の研修実施 児童へのデモ授業では運動量(歩数)が向上 ★ 首脳会談採択された日越共同声明にはベトナムにおける日本型教育の拡大が盛り込まれた。	
ヤマハ (ベトナム 社会主義共和国)	初等中等義務教育の音楽教科への器楽教育導入及び定着化事業 ○ 器楽教育の普及により、自由な感情表現を通じた他者との協調や責任感の醸成を実現し、ベトナムにおける音楽教育の充実に寄与 ★ クラブ活動での試行、器楽教育に関する専門家派遣(横浜国立大学/小川教授)や教員養成、教材開発の支援を行った。(小川教授は、ベトナム政府の音楽教科アドバイザーに就任)	

※その他公認プロジェクト(補助金あり)2件、応援プロジェクト(補助金なし)18件を採択

文部科学省によるSDGs達成に向けた取組

文部科学省によるSDGs達成に向けた主な取組の方向性

- 「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」との政府指針を前提として、教育及び科学技術分野等を中心に積極的な役割を担う。具体的には、少子高齢化や国際社会共通の課題等への対応を念頭に、日本の科学技術が産み出すイノベーション等の恩恵を最大限に活用すること等に留意しつつ、優先順位の高いものから具体の取組を実施する。
- まずは、2016年に決定された優先課題の解決を急ぐため、(1)次世代の教育の振興(持続可能な開発のための教育(ESD)の推進等)及び(2)科学技術イノベーションを通じた地球規模課題の解決に関する取組の強化を中心にSDGsの達成を目指す取組を実施する。
- なお、具体の取組の実施にあたっては、①普遍性、②包摂性、③参画性、④統合性及び⑤透明性を意識するとともに、そのフォローアップの状況等を踏まえつつ、柔軟かつ効率的・効果的な取組の実施に留意する。

文科省が優先的に取り組む分野

貢献する優先課題とSDGsの主なゴール

(1) 次世代の教育の振興
(持続可能な開発のための教育(ESD)の推進等)

①あらゆる人々の活躍の推進

SDG1,4,5,8,
10,12

(2) 科学技術イノベーション
(STI for SDGs)

②健康・長寿の達成
③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会
⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

SDG3,7,9,11,
13,14,15,17

文部科学省によるSDGs達成に向けた取組

[参考]SDGsに関する文部科学省の施策一覧

優先課題	施策名	施策概要
優先課題① あらゆる人々の 活躍の推進	幼児教育の振興	家庭の経済状況に左右されることなく、すべての子供に質の高い幼児教育を受ける機会を保障すべく、幼児教育の無償化に係る支援の充実を図り、その質も向上させる。
	初等中等教育の充実	教育の機会均等を図るため、義務教育段階の就学援助や高校生等への修学支援に取り組む。 新学習指導要領を実施するとともに、教員の資質能力の向上及び教職員等の指導体制の充実に取り組む。
	高等教育の負担軽減	意欲と能力のある学生が経済状況にかかわらず修学の機会が得られるよう、大学等の授業料減免、奨学金等をはじめ経済的支援等の取組を実施。
	特別なニーズに対応した教育の推進	障害のある者がその年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育が受けられるようにするため、教育内容・方法の改善充実などを図る。
	 SDGsの達成に資する人材育成の強化	アジア太平洋地域におけるユネスコの教育及び科学分野のへの信託基金や、ESDの推進及びユネスコ活動に係る国内事業者への補助等の取組を通じてSDGs達成のための人材育成を強化。
	 スポーツ・フォー・トゥモローの推進	2014年から2020年までの7年間で、途上国をはじめとする100か国・1000万人以上を対象に、日本政府が官民連携でスポーツによる国際協力を推進。
	 日本型教育の海外展開推進事業 (EDU-Portニッポン)の実施	有識者会議、シンポジウム等を通じて関係者間で議論・情報共有を図るとともに、海外見本市への出展、個別相談、パイロット事業(現在25件)の支援等の取組を実施。

第3期教育振興基本計画について(答申)

(平成30年3月8日:中央教育審議会)

第1部 我が国における今後の教育政策の方向性

5. 教育政策推進のための基盤を整備する

(日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化)

○ 知・徳・体のバランスのとれた力を育むことを目指す初等中等教育や、質の高い理数科教育、高等専門学校や専修学校に代表される産業人材育成などの日本型教育には、近年、諸外国からも高い関心が示されている。日本型教育の海外展開は、海外から日本に来て直接学んでもらうためのきっかけとなり、諸外国との強固な信頼・協力関係の構築、我が国の教育機関の国際化の促進、日本の教育産業等の戦略的な海外進出の促進、ひいては我が国における教育政策推進の後押しとなることから、こうした取組を積極的に進めていくことが重要である。

第3期教育振興基本計画について(答申)

(平成30年3月8日:中央教育審議会)

第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

5.教育政策推進のための基盤を整備する

目標(21)日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化

海外展開モデルケースの形成や、国内の教育環境・基盤の整備、諸外国との教育に係る人材交流の強化をすることで、日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化を推進する。

(参考指標)

- ・海外に対する教育事業に参加した日本側の教職員・学生・児童・生徒の数
- ・海外に対する教育事業に参加した相手国側の教職員・学生・児童・生徒の数
- ・日本人学生(高校生及び大学生等)の海外留学者数(再掲)
- ・外国人留学生数(再掲)

○ 官民協働による日本型教育の海外展開

関係府省・関係機関等と連携し、知・徳・体のバランスのとれた力を育むことを目指す初等中等教育や、実験実習を中心とした5年一貫の実践的な技術者教育を行う高等専門学校制度などの日本型教育の海外展開に係る検討や情報共有・情報発信等を行うための場の提供、海外展開モデルケースの形成等を行うことを通じ、日本型教育の海外展開の更なる促進を図る。

○ 途上国への教育協力

途上国に対し、留学生の戦略的な受入れや高等教育機関の充実強化を中心とした人材養成の支援、体育カリキュラム策定の支援、部活動や運動会をはじめとする多様な学びの機会の提供支援、スポーツの価値及びアンチ・ドーピングに関する教育の支援等を行うことにより、途上国への教育協力を推進する。

再掲の施策群

- 英語をはじめとした外国語教育の強化
- 国際化に向けた先進的な取組を行う高等学校・高等専門学校・大学等への支援
- 日本人生徒・学生の海外留学支援
- 外国人留学生の受入れ環境の整備
- 海外で学ぶ子供や帰国児童生徒、外国人児童生徒等への教育推進

The logo for EDU-Port Japan features a cluster of colorful circles in red, orange, yellow, green, blue, and purple, arranged in a roughly circular pattern on the left side of the slide. To the right of this cluster, the text "EDU-Port" is stacked above "Japan" in a bold, black, sans-serif font.

EDU-Port
Japan

来年度のパイロット事業
公募に向けて

日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）

平成30年度予算案
平成29年度予算額

71百万円
63百万円



【概要】諸外国から高い関心が示されている日本型教育について、各省連携・官民連携のもと海外展開を促進

【効果】○日本の教育の国際化 ○親日層の拡大 ○日本の経済成長への還元

プラットフォームの運営【41百万円(継続)】

JETRO等の連携の下、「日本型教育の海外展開官民協働プラットフォーム（EDU-Portニッポン）」を運営し海外展開のための基盤を構築

- ◆ 官民の代表からなる有識者会議
- ◆ シンポジウム
- ◆ 海外見本市への出席
- ◆ 事業者に対する個別相談
- ◆ プロモーション素材の作成（動画、パンフ等）
広報（ウェブサイト・メルマガ等）
- ◆ 文科省幹部による相手国政府との交渉

事務局

（海外展開事業の指揮系統）



海外展開パイロット事業【30百万円(14百万円増)】

日本型教育の海外展開のモデルとなりうる事業を、プラットフォームを通じて集中的に支援

- ◆ 渡航費、通訳費等の経費支援
- ◆ 在外公館等による現地でのサポート等

Aタイプ（個別枠）【20百万円(4百万円増)】

個別の機関による個別テーマの海外展開（2年）

- ☆新興国には日本型教育への膨大なニーズ
+ 官邸外交により首脳レベルからの要請増加
- ☆海外展開を希望する教育機関・事業者の増加
- ☆欧米・フィンランド・オーストラリア・シンガポール・中韓等
は国をあげて自国の教育を海外に展開

ニーズ・シーズの増大、対象国の拡大に対応しきれず、優れたコンテンツを持っているにも関わらず、諸外国に後れをとっている

⇒ 件数の拡充が必要

200万×10件【2000万(継続分+新規分)】 拡充

<想定地域>

ASEAN・インド
中東、中南米、アフリカ

Bタイプ（コンソーシアム枠）【10百万円(新規)】

複数機関による包括的テーマの海外展開（2年）

- ASEAN・インド
- ☆各地域からのニーズに応えるためには、テーマの広がり、地域的広がりが必要
- ☆モデルを、持続性・自立性のあるものにするためには、日本側教育機関・事業者の連携が必要
- ☆新興国側にはすでに教育機関・事業者のコンソーシアムが形成されつつあり、諸外国は連携をねらっている

⇒ 複数機関を支援できる仕組みが必要

500万×2件【1000万】 新規

教職系大学のコンソーシアム
教育コンテンツ提供の教育機関・事業者のコンソーシアム
海外展開する専修学校のコンソーシアム 等

点から面へ：

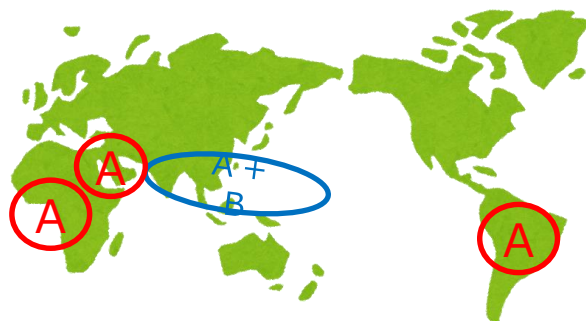
これまで国別分科会、パイロット事業にて個別の事業者を支援。
コンソーシアム化の土壌整う



ASEAN地域・インド

【ニーズ例】

- ・ASEAN：域内共通のカリキュラム・教員養成への協力に対応する日本の教職系大学のコンソーシアム
- ・ヴェトナム：食育・健康教育
- ・ミャンマー：幼児教育
- ・インド：産業と直結する専修学校教育 など



- すでにパイロット事業を行った地域
- パイロット事業が行っていない地域

まずは点を：各国から多数のニーズが寄せられるも、対応できてない

中東地域

産油国（非ODA国）から石油資源に依存しない国家運営のための日本型教育に関心

【ニーズ例】・サウジアラビア：道徳教育・ジェンダー教育

中南米地域

日系人コミュニティの存在もあり、日本型教育に根深い関心

【ニーズ例】・ブラジル：武道（規範意識）

・パラグアイ：ICT教育 など

アフリカ地域

JICA事業の継続性・定着へのニーズ

【ニーズ例】・サブサハラ諸国：教職員研修 など

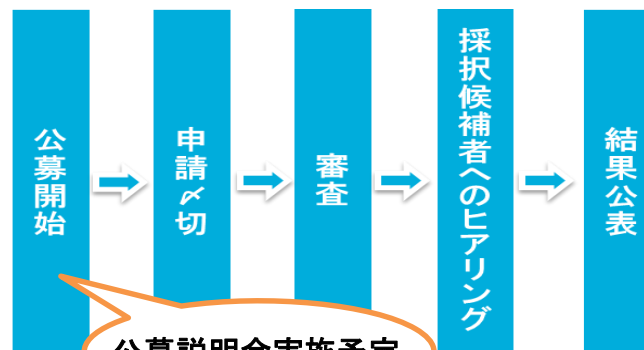
平成30年度パイロット事業公募について(現時点でのイメージ)

目的

プラットフォームを通じ集中的に支援し、併せて成果・課題を検証、共有することで日本型教育の海外展開のモデル形成に資すること

必須要件

- 相手国のニーズを踏まえ、それに応える教育事業であること
- 日本の教育の良い点が明らかにされており、「日本型教育の展開」であることが分かりやすい(ビジビリティの高い)内容であること
- 民間事業者や教育機関による既存の海外展開活動や開発援助プロジェクト等が直面している課題の改善に資する展開モデルであること



公募情報はメルマガで発信。
ぜひご応募を。

7月

8月

9月

類型	Aタイプ(個別枠)	Bタイプ(コンソーシアム枠)
実施機関	個別機関	複数機関によるコンソーシアム
想定地域	アジア、中東、 中南米、アフリカ	ASEAN地域、インド
経費支援	200万円／件／年	500万円／件／年
調整支援	推薦レターの発行、現地関係機関との交渉調整支援など	
支援期間(予定)	2年	2年
採択件数	新規8件 大幅拡充	新規2件 新設枠
重点テーマ例	—	・海外の教員養成・教員研修への協力 ・教育コンテンツの海外展開 ・職業教育の海外展開

(参考) 平成29年度パイロット事業の支援内容

パイロット事業で 実施する支援項目	支援の具体的な内容	支援活用により想定されるメリット
呼称・ロゴマーク使用の 許可	採択された事業に関する対外発信において、「EDU-Port 公認／応援プロジェクト」の呼称、および「日本型教育の海外展開推進事業(EDU-Port ニッポン)」ロゴマークの利用を許可。	- 国内での事業発信、ブランディング ✓ 採択された事業の推進を国内で発信・広報する際に呼称・ロゴを統一的に使用し、事業や自社のブランド向上。 - 事業展開する現地国での競争力確保 ✓ 日本政府が公認・応援する事実を積極的に発信することで、現地での競合との差別化を実現。
個別相談会	当該事業の実施機関、文部科学省と事務局の三者による個別相談会の場を提供。	- 課題の早期解決 ✓ 当該事業の進捗状況や課題・懸念を共有し、文部科学省や事務局の助言・サポートによって効果的に事業推進。
現地機関との調整支援	- 当該事業が「EDU-Port 公認／応援プロジェクト」として採択されたことを示す、英文での推薦レター(文部科学省を発信者名とする)を発行・提供。 - 現地関係機関へのアクセスを支援するため、現地の日本大使館関係者(アタッシェ等)を紹介。	- 現地国の政府関係者との調整の円滑化 ✓ 推薦レターや現地の日本大使館関係者の支援により、現地国の政府関係者へのアクセスが円滑化。
事業展開に関わる経費 の一部支援 (※「EDU-Port 公認プロ ジェクト」のみ)	当該事業展開に要した経費の一部を支援。	- 活動の円滑化 ✓ 事業展開に必要な経費(旅費等)の一部が支援されることで、事業活動の円滑化。 - FS 調査等の促進 ✓ 経費支援を活用して、事業の不確実性の高い段階での活動(FS 調査等)を実施。
「日本型教育の官民協 働プラットフォーム」 ^注 の 広報ツールによる支援 ^注日本型教育の海外展開に 関心を有する官民の機関が 参加するプラットフォーム。	- 同プラットフォームの一環として展開される以下のような活動を通じ、情報発信・交換の機会を提供。 ✓ 国内シンポジウム ✓ 海外イベント ✓ ウェブサイト(日英双方) ✓ メールマガジン、SNS など	- 国内外での事業発信、ブランディング ✓ 同プラットフォームのウェブサイト(日本語／英語版)等を活用して、当該事業での活動・実績を国内外へ発信し、事業や自社のブランド向上。 - 事業展開のための連携モデル創出、連携相手発掘 ✓ 同プラットフォームの参加団体交流を通じて、新たな連携先発掘・ビジネスモデル構築を実現。

本日のシンポジウムにおける
ポスターセッション(16:48ホワイエにて)
レセプション(18:15文科省食堂にて)を、
教育事業者同士、在京大使館、政府関係機関との
ネットワーキングにご活用ください

ありがとうございました

EDU-Port Japan

検索！

